

關精拙 せきつ 僧侶。明治十年一月十八日兵庫縣濱坂生れ、昭和二十
 年十月一日歿（八七七一九四）。舊姓株本、僧名元淨。號峨翁、雨筑、
 青菰。明治十一年大隣寺、關祖舜の養子となり、十五年得度。のち樂々
 北隱、橋本峨山等の學ぶ。四十四年徳光院住職、大正五年京務顧問に
 任じ塔頭慈濟院の住職。翌年東亞同文書院客生として支那行脚、九年
 インド佛蹟巡拜。十一年大教師管長、大龍寺住職に就く。昭和十四年
 佛教回願會顧問となり北京での發會式に臨場。十九年臨濟各派合同第
 三代管長就任。詩書畫共々秀れた。また、明治十九年長兄廣太郎は足
 尾銅山鑛山長として横濱からイギリスの汽船ノルマントン號に乗船し
 て歸郷の途次、紀州沖で沈没遭難犠牲者二十三名中の一人。
 著書に 禪僧 支那行脚の達磨の足跡（大正八年一月十八日）（松堂書店）、
 『武千道乃高揚』（山田無文編、昭和十七年一月）二十五頁京都・顯道
 書院）等。藤井石童著『關精拙』（昭和十九年一月）二十頁大阪・大東
 亞美術院『昭和美術名家選』（山田無文編『峨翁老師遺薰』（昭和
 二十一年四月））（京都・大本山天龍寺）がある。

